

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 1 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 1 号

令和 8 年 5 月 1 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稲

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4 月第 5・6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 26.7%、25 株当たりの本田生息虫数は 0.9 頭と、平年(30.8%、1.7 頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が 4 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。
- (2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4 月第 5 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (2) 前年 9 月第 3 半旬及び 10 月第 3 半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、3 月第 3 半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (3) 高松地方气象台が 4 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%と、平年(18.8%)に比べてやや高いが、発病葉率は1.8%と、平年(1.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1)予報内容

発生時期 平年より早い

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

- (1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、8地点で越冬を確認した。越冬成虫数は4.7頭/m²であり、平年(3.1頭/m²)に比べてやや高く、前年(成虫確認地点数は4地点、越冬成虫数は0.2頭/m²)に比べて高い越冬密度であった。
- (2) 上板町及び勝浦町に設置した予察灯調査において、上板町では、ツヤアオカメムシは平年(4月15日)より11日早い4月4日に、チャバネアオカメムシは平年(4月21日)より20日早い4月1日に初誘殺を確認した。勝浦町では、ツヤアオカメムシは平年(4月20日)より18日早い4月2日に、チャバネアオカメムシは平年(4月23日)より13日早い4月10日に初誘殺を確認した。
- (3) 4月第1半旬～5半旬までの誘殺数は、ツヤアオカメムシは、両地点とも平年に比べやや多く誘殺されたが、チャバネアオカメムシは、両地点とも平年並の誘殺数であった(表1)。
- (4) 高松地方气象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
4	1	1	0	0	5	0	0
	2	9	0	0	7	0	0
	3	18	0	1	6	0	0
	4	27	3	2	28	1	0
	5	1	2	16	6	1	5
	6		1	15		0	4
5	1		2	31		1	25
	2		1	31		0	17

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
4	1	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	3	0	0
	3	1	0	0	0	0	0
	4	3	0	1	8	1	0
	5	0	19	11	1	0	2
	6			1	7		0
5	1		9	7		0	8
	2		0	5		0	7

3)防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は早朝か夕方に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 4月第1半旬から第5半旬までのフェロモントラップへの平均誘殺数は319頭と、平年(96.2頭)の約3.3倍となった(図1)。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 性フェロモン剤を設置することで、雌雄間の交信を攪乱して、次世代幼虫の密度を低下させる。

(2) 薬剤散布は6～8月を重点に3～4回実施する。

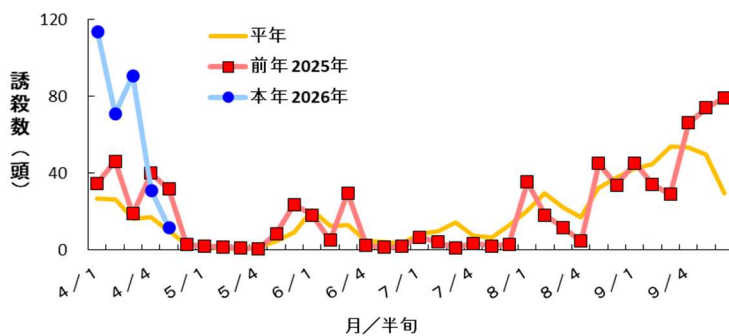


図1 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数推移
※鳴門市、松茂町の7地点平均

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.5%、発病株率が1.0%)。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

(2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、圃場外で処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、被害度は0.7と、平年(84.9%、6.5)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年

並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、被害度が0.2と、平年(41.6%、1.3)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時または定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。